

# 2019年度(令和元年度)「自ら考え学ぶ授業づくり」アクションプラン

<学校用>

校番(5)番 福山市立川口小学校

## 1 育成する力(21世紀型“スキル&倫理観”)

育成する21世紀型“スキル&倫理観”	問題解決力	コミュニケーション力	協調性	自律性
めざす子ども像(21世紀型“スキル&倫理観”を身に付けた児童生徒の姿)	課題の解決に向けて、自分の考えを根拠・理由を付けて書き、伝え合い、他者の考えと比較し、統合・分類、法則化、よりよい考えについての検討等を行う。		自他の立場・自分の欲求ときまりとのおりあいをつけつつ、思いやりの心をもち協力して活動する。	高い目標をもち、粘り強く努力する。

## 2 授業の現状

児童が、個人思考場面で理由を持って自分の考えを書いたり、ペアトーク場面で相手に理解を促すように話したりする型が見え始めている。しかし、まだ主体的・双方向的な交流になっていないので、思考を深め合えていない。

転換

## 3 めざす授業の姿

課題の解決に向けて、自分の考えを根拠・理由を付けて書き、伝え合い、他者の考えと比較しながら、主体的・双方向的に交流し、思考を深め合うことができる児童を育てる授業

## 4 めざす授業に向けた取組の具体

4月からの取組	8月末の状況	9月からの取組	12月末の状況	1月からの取組	2月末の状況
<p>①個人思考の場面で自分の考えを理由をつけて書く、対話をもとにして自分の考えをまとめて書く、振り返りを書くのどれかの「書く」を授業に位置づける。</p> <p>②ペア・グループ・集団の交流において、「つながり発言」を使って考えと考えをつなげる対話を授業に位置づける。</p>	<p>①「授業の中に『書く』を位置づけている」と答えた教員は、84%であった。 ▲話し合い活動を中心にする、書く活動を確保するのが難しい。教師主導で書く活動を設定してしまっている。</p> <p>②「つながり発言を使っての対話ができている」と答える教員は、37%であった。 ▲授業の中で、児童が話したことに教師がすぐ反応し、一問一答になってしまっている。</p>	<p>① 児童個々の学びを大切にするために、「書く」か「話す」か等の活動を児童と一緒に決めるようにする。また、「書く」については、授業の終わりに振り返りの時間を設け、学びを再構成できるようにする。</p> <p>② 「つながり発言」を使って考えと考えをつなげられるように、教師がファシリテートしたり、コーディネートしたりする。</p>	<p>①児童と一緒に「書く」か「話す」かを決めることで、児童が、学習内容に見通しをもったり、意欲的に活動したりする姿が見られた。また、「振り返りを書く時間を設けている」と答えた教員は、74%であった。 ▲授業の中で、書く時間を確保できず、振り返りの内容が充実していない。</p> <p>②児童の考えを広げたり、共有したりできるよう意識するようになってきた。 ▲考えを広げる良さを価値づけしていない。</p>	<p>①引き続き、児童と一緒に「書く」か「話す」か等の活動を決める。振り返りの時間を確保し、内容の価値づけをする。</p> <p>②児童の考えを広げたり、共有したりした時に、板書に見えるように書き込み、価値づける。</p>	

## 5 取組の結果等

数値は2019年(R元年)調査等の状況

全国学力・学習状況調査(%) (児童生徒質問紙調査)(%) (肯定的評価)

国語	65(-1)	自分にはよいところがある	88.2
算数	67(-1)	先生はよいところを認めてくれる	87.1
		将来の夢や目標を持っている	88.2
		人の役に立つ人間になりたい	94.1

( )は県平均との差

数値は2018年(H30年)調査等の状況

「基礎・基本」定着状況調査 (児童生徒質問紙調査)(%) (肯定的評価)

学校へ行くのは楽しい	91.7
「やりなさい」と言われなくても、自分から進んで勉強をしている	80.9
授業では、課題について、「なぜだろう」「やってみよう」と思う	75.0
授業では、友だちと話し合うなどし、考えを深めたり広げたりしている	77.4

暴力行為発生率・不登校児童出現率 (%) (12)月末現在

暴力行為	0	不登校	1
------	---	-----	---

体力づくり改善計画【広島県体力・運動能力調査から】

県平均以上項目数	前回目標値に対する結果	重点課題	改善する取組内容・方法
(男子) 23 / 48	・本年度、県平均かつ全国平均値を上回る項目率は45.8%となり、昨年度を31%下回った。 ・総合評価割合においてAB率52.4%、DE率17.5%となり、運動が得意な児童の割合が減り、運動が苦手割合が増えたという結果になっている。	○男子 「20m シャトルラン」「立ち幅跳び」「ボール投げ」において、県平均値および全国平均値を下回っている学年が多い。 ○女子 「立ち幅跳び」「ボール投げ」において、県平均値および全国平均値を下回っている学年が多い。	「立ち幅跳び」→体育の授業の準備運動・主運動において、「ケンケン」や「ジャンプゲーム」など、跳の動きを取り入れた運動を実施する。 児童の運動量を確保するためにロングタイム大休憩を設定し、定期的に実行する。
(女子) 29 / 48			
目標値	○総合評価において、5段階評価(A・B・C・D・E)のうち、A・B 評価を獲得する児童の割合を70%以上にする。		

福山100NEN教育アンケート[対象:授業者](%)

質問項目	当てはまる	当てはまらない
仕事にやりがいを感じている	72.0	0
仕事に充実感がある	52.0	0

児童生徒アンケート(%)

(12)月実施

質問項目	当てはまる	当てはまらない
授業で考えることが面白い		
自分の考えは、認められている		